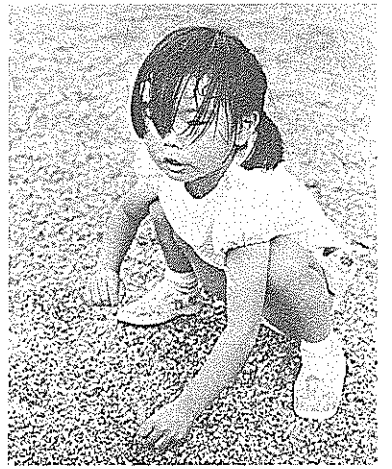


市民のひろば



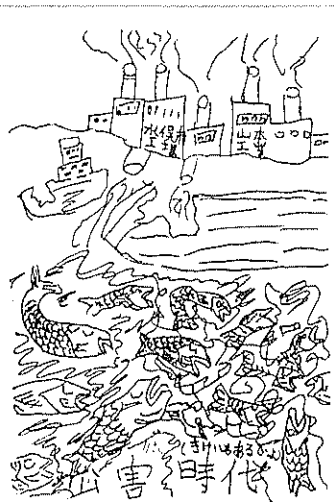
—前浜で—

声

大人のために
世界はあるの？

六月三日、人ごみに出る事はなるべくさけることにおおが、嫁とM君（親せきの五歳児）の、うれい誘いでもあり、高知行きとあいなった。まず、M君の命令に服従、デパートの屋上にある子供広場（広場とはいえないが）そこで、何とかいう腰かけたままでくるくるまわるのにM君と並んで乗った。七十三歳の歴史上初めての記録である。

そのすぐ隣りでは、ものすごい響をたてるゲームのようなもので



森尾浩紀（十市）11歳

の日照りも景気上々と見えて清気にみち、これが物備高に悲鳴をあげておる日本列島の一角であるかと思うと、何だか割りきれないものが残る。そして高知行展へ。

郷土文化会館の高知行展にきてみると、ここは今までの気がいじみた雑踏とは別天地。行きかう人々に「ようこそ」と無言の挨拶をかかずようなく持になる。この作品には入賞を示す金銀のほり札がない、それが自分たち素人が勝手に採

点(?)でできる楽しみが残されていて興味があります。南国市展のよう



小笠原美鳥 (領石)

広報短信

親子クイズから

親子クイズの答ハガキには、いつも広報への意見や、楽しいマンガが書きそえられています。「広報の中のどこかに、学生にも参加できるスペースがあってもいいと思います。学生から見た南国市のいいところ、悪いところなど、どうでしょうか？」

私だけの意見です。生霊気でしたかしら?」篠原の岡上美智さん、どうもありがと。どしどし意見を、声をおよせください。市民のみならずもお願いします。広報が最も素晴らしいものになるのはみなさんの声のついでに時です。「声」のない広報はクリープのないうーヒートと同じ(?)です。廿枝の常徳山香さん、十三歳は親子クイズの答のハガキに、こんな意見を書きそえしてくれました。「同和教育についての古い考えはすてましよう。子供を本当に差別から救うためには、それだけに部落差別の知識をのばし、自分が差別にうちかつただけの力を身につけなくてはならない。それは今、大人たちが気がつかなくてはいけないのだと思います。(葛ヶ池中同和教育の中から思ったこと)」

に子供の作品がならべられてないだけ寂しいが、全作品のすばらしい進境に魅せられると同時に、南国市展の開かれるのが待ちどおしい気持ちである。

現われるが、子供のそれは消える一方。通学通園も命がけの住復それはまだよいとしても、大人たちがこころみずに吹きまくる進学ラッパ、それにお目玉頂戴とくをあわせなければお目玉頂戴とく。誰かの歌をまねて『大人のために世界はあるの』と歌う子供が現われても決して不思議とはいえない所まで来た。玩具屋と書店の活況を見ただけでも感じられた。このような環境の中でM君も育て

られるかと思うと、先の短い七十三のよわいが情けなくもなる。眼に見えるゴミ処理も、もちろん急ぐ必要は認めるが、子供の環境をこのまま放置しておいて、どうして平和な福祉園家などといえよう。子供は家の宝であり園の宝であるといつた昔の言葉を今でも活かしておきたいと思ふ。

片山七三

つくし



今年も又、暑い夏がやってきた。この暑さがやがてくる前に収穫する山もも。山ももにはいくつかの思い出があり、あの甘すっぱい、つぶらな実を口に含むと懐しい気持ちでいっぱいになる。

子供の頃、夕方、蚊や火にむせながら、山ももの荷造りを手伝ったものだった。危蔵モモはやはり甘い。そぞりてよって、黒い大きいのが有ると先す口へ……「太いのはばっかり食べたらいかんぜよ。上へならべるのがのうなるき」よくしかられながら食べた

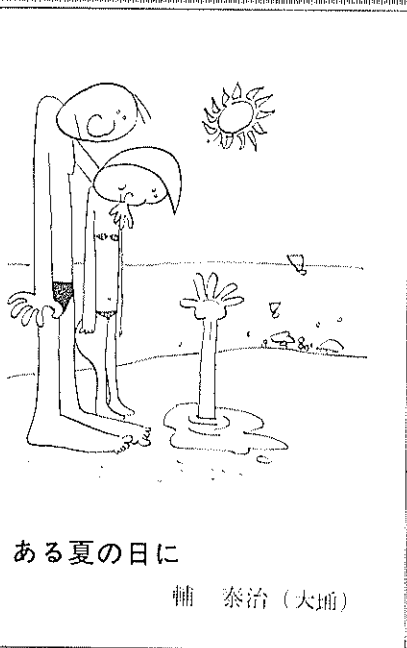
山もも

もう十六、七年も前になるだろうか、高知の高校に通っていた時、生徒会で牧野富太郎博士に山ももをお送りしてはと資金カンパをし、空輸でお送りした。山ももの本場、十市から通っていた私は、枝折りを準備した事だった。すでに八十才をいくつか過ぎておられた先生が、故郷

の味をとて喜んで下さり、さつそくお礼状をいただいたあの感激も、もう遠い思い出となってしまった。そして、三年位たつて、十市の青年団から五台山の植物園へ、山ももの苗木を贈った事だったが、もう随分と大きくなっていることだろう。

山ももは公害に強い木だそうで、今年も苗木を育ててみよう。と、幾日も幾日も十市の山へ、和食へ、白髪へと実を果実にいっした。来年の春には、はたして芽を切ってくれることやら……「来年の春には、ついでがを一本植えちよこか、食いだやうにええが」と主人。もし子供たちが果立ち、家を遠く離れても、故郷の味としていつまでも残してやりたいと思ふ。そして私の思い出も一つ、又一つと増してゆく。

久家藤 (田村)



ある夏の日に 輔 泰治 (大畑)

文芸

我職場目ざして急ぐ若者の雄々しき姿に我もきおひぬ 山本喜代 (岡豊)

東村耕牛 (立田)

もち竿の伸びゆくせみのひそめける
もち竿のようやくせみにとどきそつ
もち竿の鼓動はせみにふれそつな

吉本其梅 (久礼田)

ミニ広報

8月24日・歌人若山牧水宮崎県に生まれる。

ミニ広報

8月27日・日本短波放送、開局(昭29)